

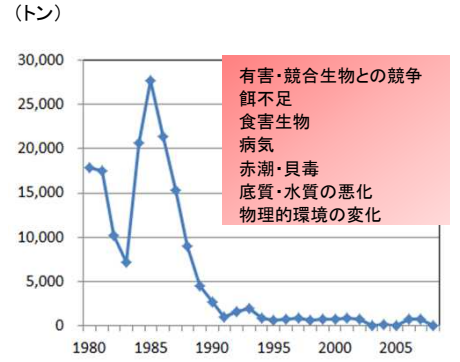
豊前海のアサリの復活をめざして ～アサリ稚貝の移植方法の開発～

【研究のポイント】

大分県のアサリ漁獲量は1985年には2万7千トン以上ありましたが、現在は数十トンほどに激減してしまい、漁協や県では、漁獲規制や種苗放流、害敵駆除などに取り組んでいます。

浅海チームでは、減少要因を解明しようとしていますが、様々な要因が絡みあって複合的に影響しあい、要因はひとつではないことがわかってきました。
また調査を進める中で、豊前海の干潟で天然稚貝が高密度に発生する場所があることがわかりましたが、ここで発生したアサリは高密度であるために成長が遅く、夏場に大きく減少するので、干潟全体の資源の増加には結びつかないこともわかりました。

浅海チームでは、ここで発生した稚貝を採集し、成長が期待され、生き残りやすい場所に移植することによるアサリ資源の回復を目指して、アサリ稚貝の効率的な採集方法とその育成技術の開発に取り組んでいます。



大分県のアサリ漁獲量の推移

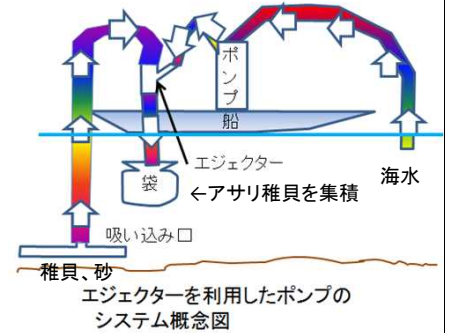
【研究の成果】

○稚貝の採集

稚貝の採集には、(独)水産総合研究センターが開発した吸引ポンプを使用しました。

この吸引ポンプは、稚貝を傷つけないよう、ポンプで吸い込んだ海水の流れを利用して、「エジェクター」という連結器に接続したホースで海底から砂ごと稚貝を吸い上げ、袋状のふるいで砂と稚貝を選別する仕組みで、ホースの長さや先端の形状などを独自に工夫しました。

この結果、平成25年7月から9月までにアサリを1,468万個(採集効率: 毎分6,400個)採集すると同時に、害敵であるホトギスガイ94万個も採集し駆除することができました。



エジェクターを利用したポンプのシステム概念図

○稚貝の移植

採集したアサリは、(株)ヤンマー、県漁協中津支店と浅海チームで開発し、特許出願中の「アサリ育成サークル」に移植しました。

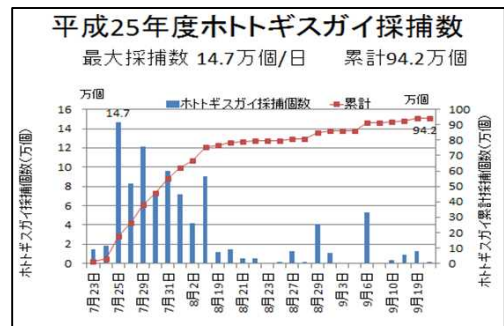
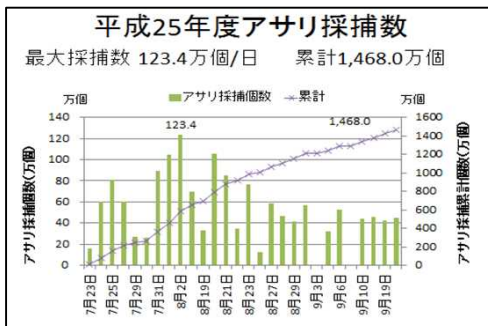
このサークルはネットで囲まれており、この中で害敵から守られて、大きく育ったアサリが産卵するなどして資源の回復に寄与することが期待されます。



船上の吸引ポンプ

サークル(特許出願中)

浅海チームでは、今後も移植したアサリの成長などの追跡調査をすることにしています。



【生産者の声】



大分県漁協中津支店
本田哲也 支店長

激減した豊前海のアサリを復活させるために漁協も県・市や企業と協力して保護対策を行っています。アサリを増やすには多くの稚貝をサークルで保護する必要があります。私たちは浅海チームが開発した技術を積極的に活用してアサリ資源の回復に努めていきたいと思ひます。

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 水産研究部 浅海・内水面グループ 浅海チーム
TEL: 0978-22-2405
住所: 大分県豊後高田市呉崎3386番地